

科目	動物感染症学（総論・微生物学）		
担当講師	内布洋一		
実務経験有	獣医師、獣医学博士、財団法人でウイルスおよびワクチン研究に従事。50年勤務		
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科 2年次前期	講義	必修	30
授業目標			
<p>感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法等を学ぶ。</p>			
授業概要			
<p>炎症と免疫の機序とアレルギーや自己免疫性疾患についても学ぶ。</p>			
成績評価の方法			
<p>評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。</p>			
教材			
動物看護コアテキスト 3巻動物の疾病と予防及び回復 6巻 動物看護の実践ファームプレス			
講師配布資料			
授業計画 毎週金曜日 2限目 10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容	
1	1.感染症と微生物	感染症とは、病原体の種類およびそれらの生物学的特徴 近代微生物学の歩み	
2	2.感染症の成立	感染症の成立要因、各種感染症の種類とその特徴 病原体の感染力と病原因子、宿主の防御能 病原体の種類別疾患の特徴	
3	3.病原微生物学 1) 細菌類の特徴	細菌類の仲間とそれらの生物学的特徴 細菌の形態、組成、構造、染色性、環境要因、増殖、培養 代謝、抵抗性	
4	3.病原微生物 2) 細菌	細菌の遺伝と変異、病原因子（内毒素と外毒素、菌体外酵素） 細菌の分類、主な病原細菌	
5	3.病原微生物学 3) その他の細菌の仲間	マイコプラズマ、クラミジアおよびリケッチアの生物学的性状 主な病原体の特徴、生活環、それらによる疾患の特徴	
6	3.病原微生物学 4) 真菌	真菌の特徴、形態、組成、構造、生物学的性状、増殖、 真菌の分類、主な真菌感染症とその特徴	
7	3.病原微生物学 5) ウイルス	ウイルスの形態、組成、構造、増殖、篇異、ウイルス性疾患の特徴 動物ウイルスの分類、人獣病原ウイルスの種類	
8	3.病原微生物学 6) 原虫 7) プリオン	病原性原虫の種類とその組成、構造および形態 主な原虫の生活環の特徴 プリオン病の特徴、プリオン蛋白の蔵宿機構、人獣のプリオン病	
9	4.感染症各論 1) 日和見感染症	生体と常在細菌叢との関わり、腸内細菌叢との有益性、有害性、 日和見感染症とその原因微生物 易感染宿主と院内感染症、薬剤耐性菌	
10	4.感染症各論 2) イヌのウイルス性疾患	狂犬病、イヌジステンパー、犬アデノウイルス感染症 犬パルボウイルス感染症、犬コロナウイルス感染症、犬口腔乳頭種 パラインフルエンザウイルス感染症	
11	4.感染症各論 3) ネコのウイルス性疾患	猫伝染性咽頭気管炎、猫カリシウイルス感染症、猫汎白血球減少症 伝染性腹膜炎と猫コロナウイルス感染症 猫白血病と猫免疫不全症	

12	4.感染症各論 4) 主要な細菌等による疾患	レプトスピラ、パスツレラ、ブルセラ、ボルデテラ、サルモネラ、ライム病、クラミジア、オオム病、ジアルジア、パペシア、トキソプラズマ、アルベルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、マラセチア
13	5.感染症対策 1) 微生物学的取扱い法	感染症統御の3要因（感染源対策、感染経路対策、感受性対策） 消毒方法と滅菌方法
14	5.感染症対策 2) 予防とワクチン、治療、診断	ワクチンの種類とその特徴（有効性と安全性、用法、取り扱い方法、抗生物質等の特性、取り扱い上の注意） 感染症の診断法